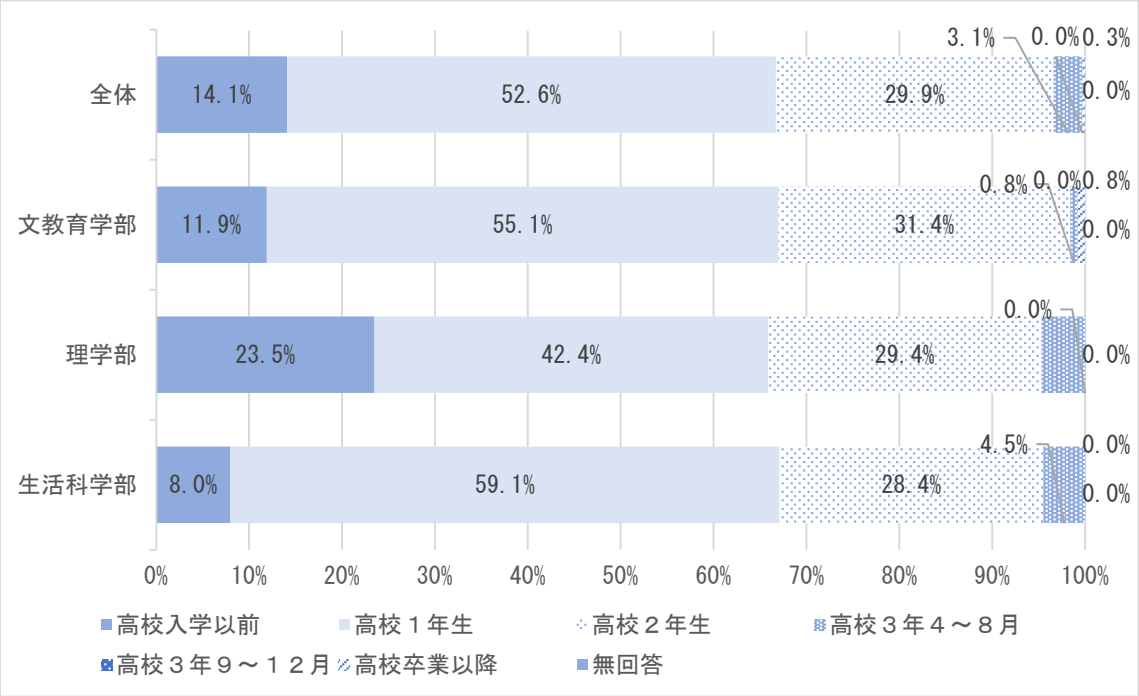
第 4 章　高校時代進路選択の分析結果

本章では、一般入試合格者 291 名にこれまでの進路選択にかかわる質問や、高校時代の進路指導、お茶の水女子大学を選んだ理由等について尋ねた結果を報告する。

図表 1-1 は、高校時代にコース（文系・理系）を決めた時期について、尋ねたものである。全体では「高校 1 年生」に文理のコース選択をしたと回答した割合が 52.6%と最も多い割合を示しており、次いで「高校 2 年生」が 29.9%、「高校入学以前」が 14.1%と続く。全体の 90%以上が、高校 3 年生になる前に文理の選択が終了している。

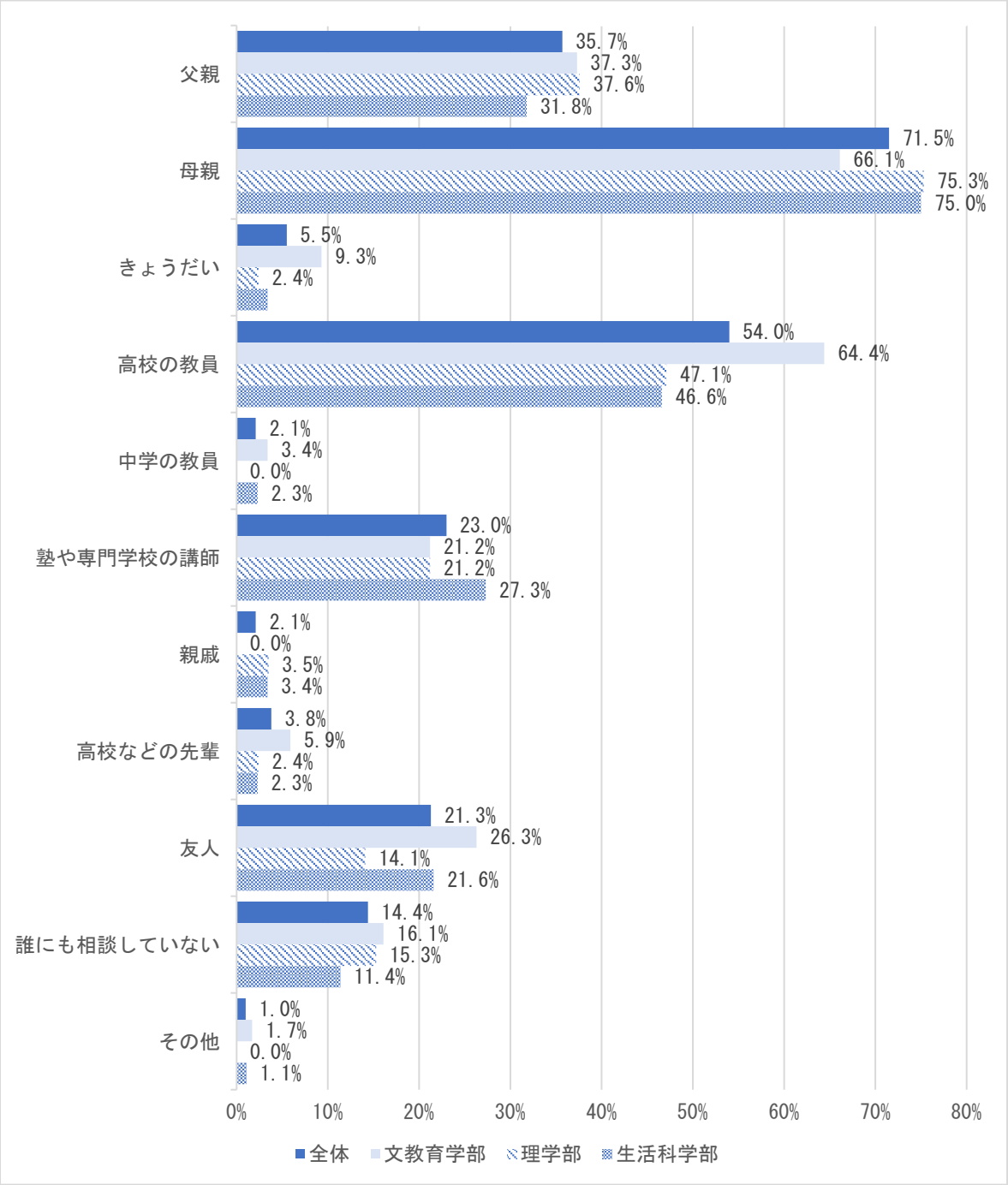
学部別に見ると、高校入学前に進路選択がおこなわれている割合が最も高いのは、理学部で 23.5%、文教育学部 11.9%であった。昨年度の調査においても、高校入学前に進路選択がおこなわれている割合が最も高い学部は理学部であり 25.9%であった。



図表 1-1　文理選択の時期

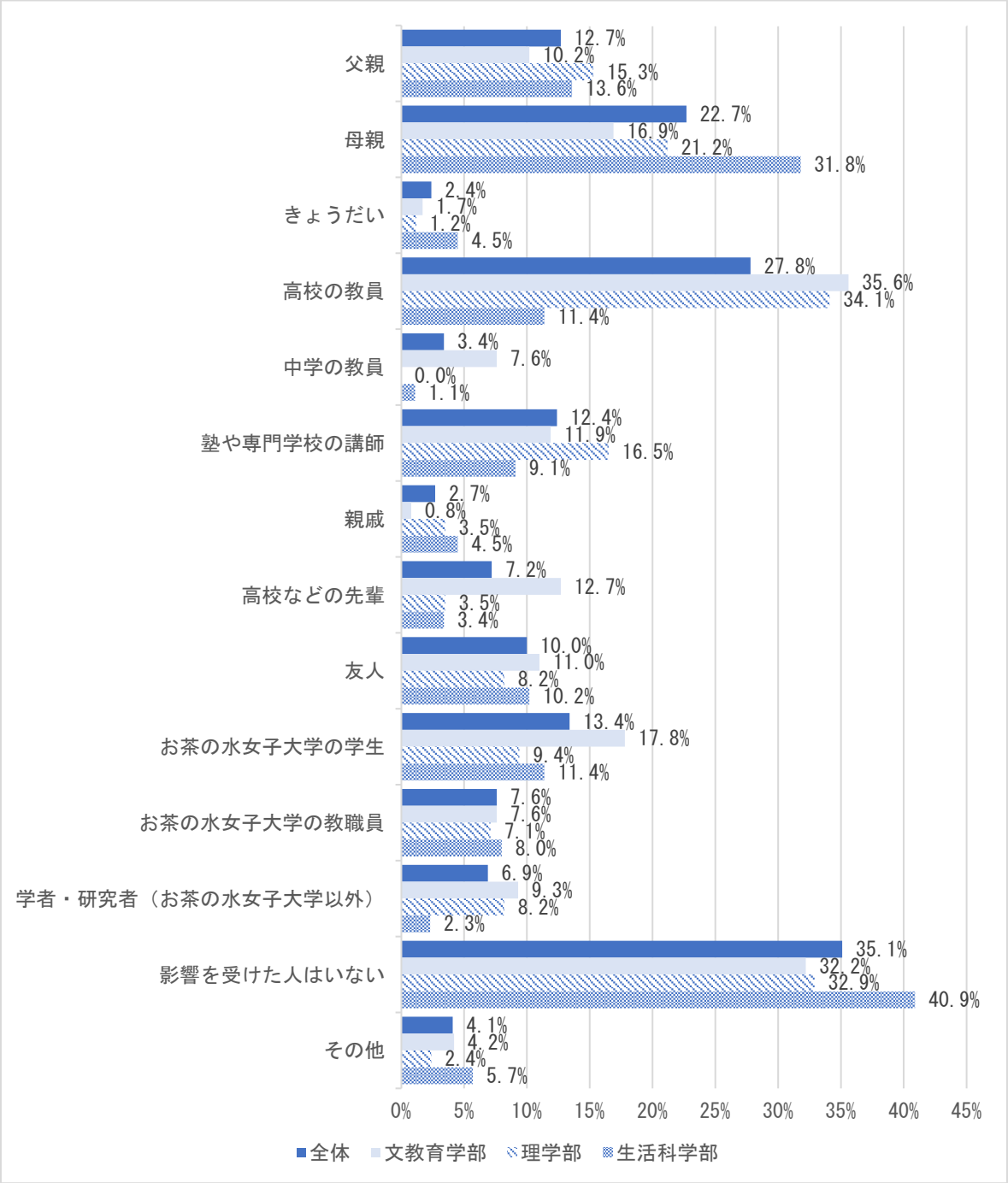
図表 1-2 では、専門（学科）を選ぶ際に、相談した人について、複数回答可として尋ねた結果である。全体で最も多い割合を示しているのは、「母親」の 71.5%であり、次に「高校の教員」54.0%、「父親」35.7%であった。「誰にも相談していない」と回答した割合も 14.4%と一定数あることが示された。

学部別に見ても、どの学部においても、相談した人の最も高い割合を示したのは「母親」であり、次いで「高校の教員」、「父親」という結果であった。



図表 1-2　専門（学科）を選ぶ際に相談した人

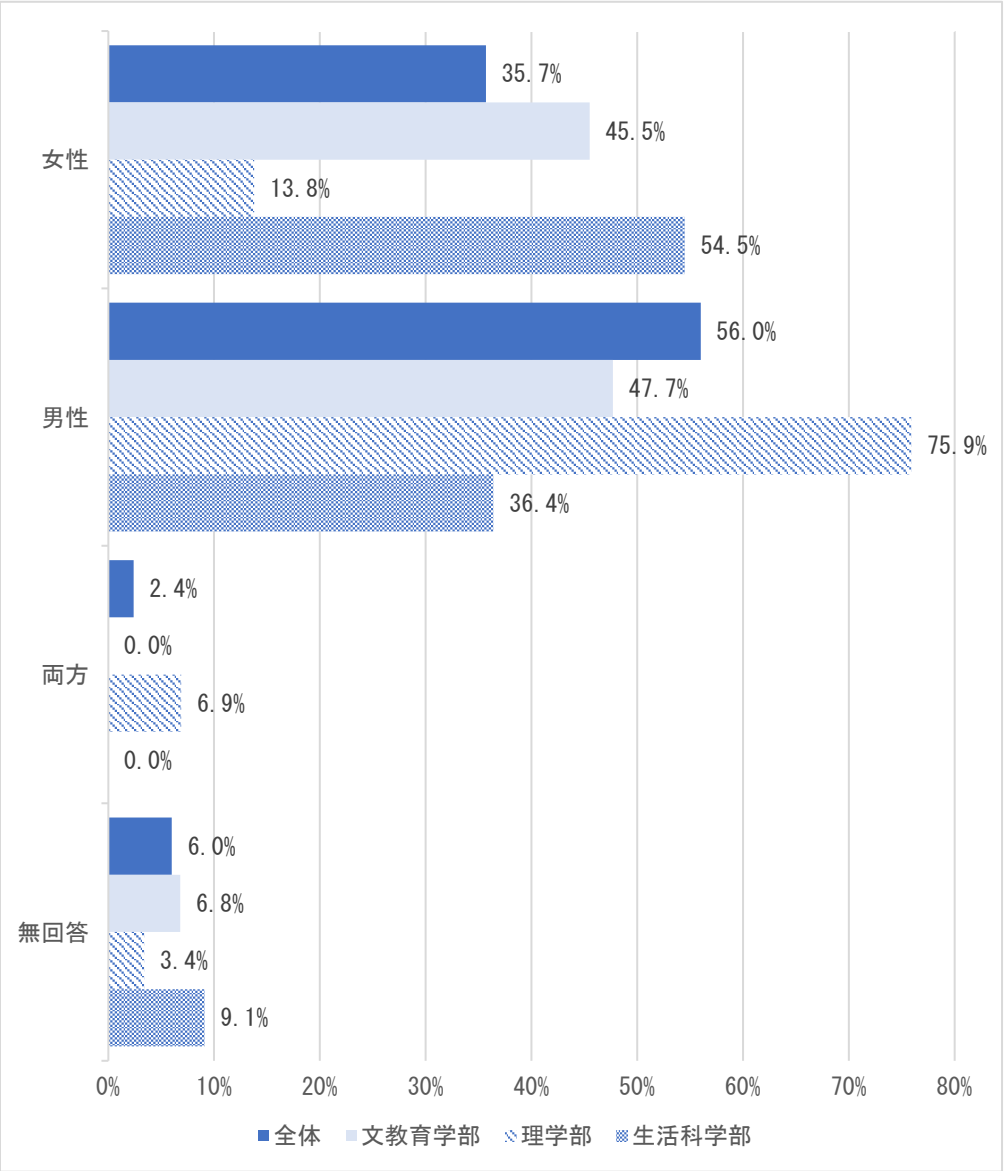
図表 1-3 では、専門（学科）を選ぶに当たって影響を受けた人について、複数回答可として尋ねた結果である。最も多いものは「影響を受けた人はいない」で 35.1%であった。影響を受けた人がいると回答した中では全体では「高校の教員」が最も多く 27.8%、次に「母親」が 22.7%、「お茶の水女子大学の学生」が 13.4%であった。学部別にみると、理学部では「中学の教員」から影響を受けたという回答がなかった。文教育学部では、最も影響を受けたのは「高校の教員」であり、生活科学部の場合は「母親」である。



図表 1-3　専門（学科）を選ぶ際に影響を受けた人

図表 1-4～1-7 では、専門（学科）を選ぶにあたって、「中学の教員」もしくは「高校の教員」から影響を受けたと回答した新入生 84 名に、その教員について尋ねた結果である。図表 1-4 では影響を受けた教員の性別、図表 1-5 では教員の専門科目、図表 1-6、1-7 では教員の卒業大学について尋ねた結果を示している。

図表 1-4 からは、どの学部においても女性教員より男性教員から影響を受けたと回答する割合が高いという、昨年度の結果とは異なっていることがわかる。文教育学部、理学部では女性の教員よりも男性の教員から影響を受けたと回答する割合が高いが、生活科学部では、女性の教員から影響を受けたと回答する割合が高い。



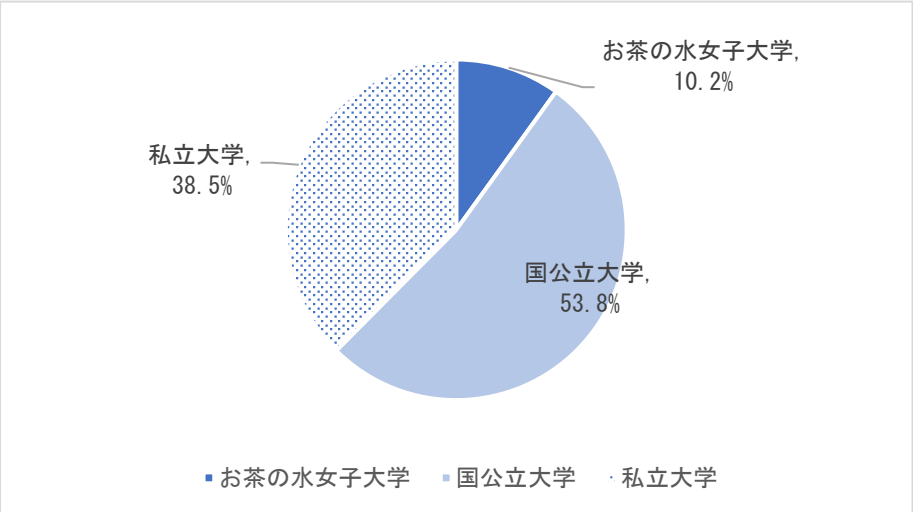
図表 1-4　影響を受けた教員（中学/高校）の性別

図表 1-5 では、影響を受けた教員の専門科目が、自身の入学学科と深くかかわりを持つものでである場合が多いことが示された。これは、昨年度の新入生調査でも同じ結果であった。

図表 1-5　影響を受けた教員（中学/高校）の専門

入学学部	入学学科	影響を受けた先生の専門
文教育学部	人文科学科	国語（3）、西洋史(1)、世界史(2)、朝鮮史(1)、地理学(3)、日本史(1)、日本史/生物(1)、倫理/政治・経済(1)
	言語文化学科	国語(6)、英語(5)、中国文学(1)、日本文学（1）日本文学（近現代）(1)、古文(1)、数学(1)、中世史(1)、日本史(1)、物理（1）、保健体育（1）
	人間社会科学科	英語(1)、政治学（欧州）(1)、国語(2)、倫理(1)、世界史(1)、考古学（1）、数学（1）
	芸術・表現行動学科	記入なし
理学部	数学科	数学(2)、物理(1)
	物理学科	物理(6)、電気電子工学(1)
	化学科	化学(5)、無機化学(1)、有機化学(1)、化学・数学(1)
	生物学科	生物(6)
	情報科学科	地理(1)、数学(1)、情報(1)
生活科学部	食物栄養学科	化学(1)、数学(1)、家庭科(1)
	人間・環境科学科	数学(1)
	人間生活学科	社会科(1)、世界史（中国史）(1)
	心理学科	英語(1)、国語(1)、社会科（1）

図表 1-6 では、影響を受けた教員の卒業大学について回答のあった 39 名の結果を、お茶の水女子大学、その他の国立大学、私立大学の割合を示したものである。また、図表 1-7 ではその卒業大学名を一覧で示している。影響を受けた教員の卒業大学について回答があったうち、10.2%がお茶の水女子大学を卒業した教員であることが示された。これは昨年の 19.6%と比べて 9.4 ポイント低い結果であった。

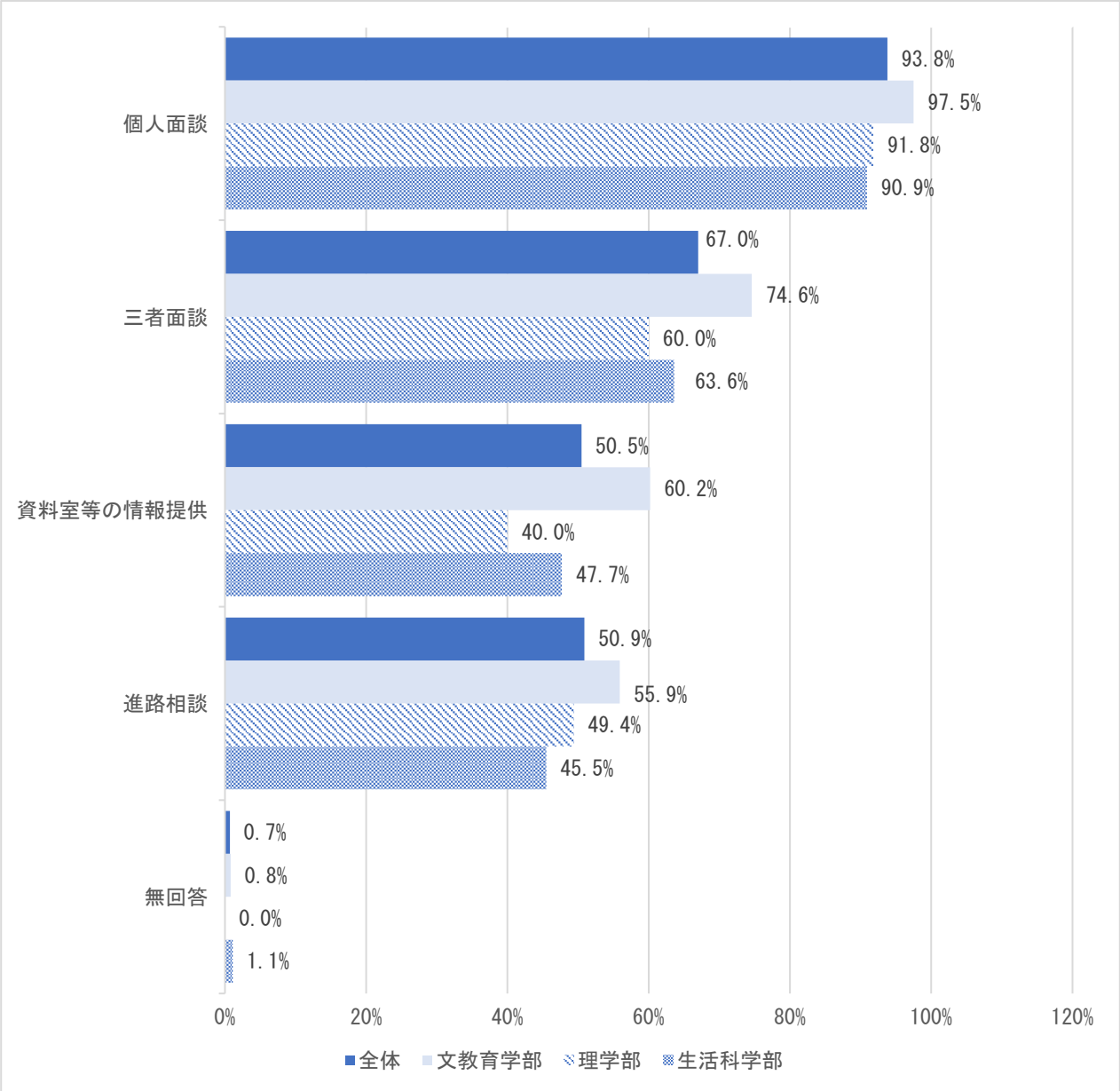


図表 1-6　影響を受けた教員（中学/高校）の卒業大学

図表 1-7　影響を受けた教員（中学/高校）の卒業大学名一覧

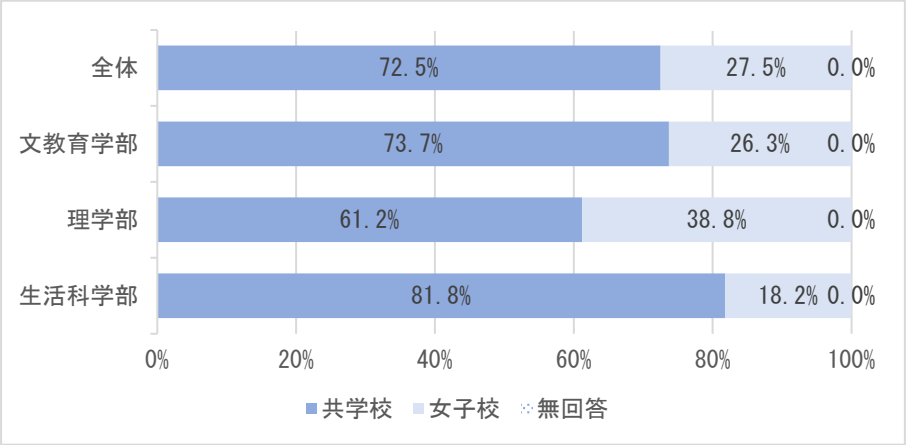
国立大学	お茶の水女子大学（3）、大阪大学（2）、鹿児島大学、群馬大学、埼玉大学（2）、東京工業大学（2）、筑波大学（4）、東北大学、都立大学、長崎大学、広島大学（2）、山口大学、横浜国立大学、千葉大学、東京学芸大学（2）
私立大学	慶応義塾大学、國學院大學、上智大学（2）、成蹊大学、東京理科大学（4）、東邦大学、立命館大学、早稲田大学（4）

図表 1-8 では、高等学校で受けた進路指導がどのようなものだったかについて、「個人面談」、「三者面談」、「資料室等の情報提供」、「進路相談」の 4 つから複数回答可として尋ねた結果である。全体で最も高い割合を示していたものは「個人面談」で 93.8%であった。



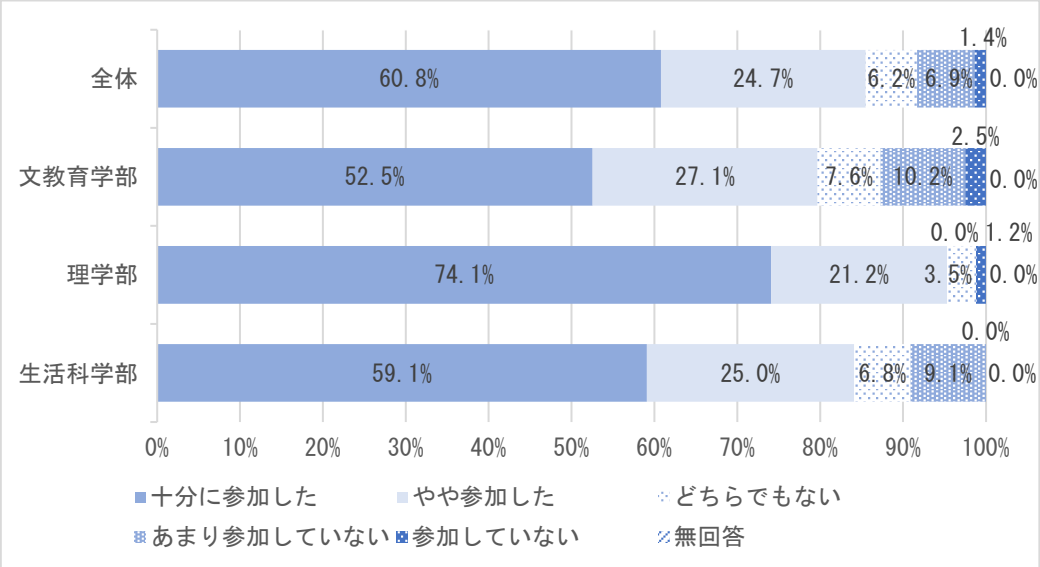
図表 1-8　高等学校で受けた進路指導

図表 1-9 では、出身高等学校について尋ねた結果である。全体では高等学校が「共学校」であると回答した割合が 72.5%、「女子校」であると回答した割合は 27.5%であった。学部別にみると、理学部では、「共学校」と回答した割合が他 2 学部と比べて低い結果であった。



図表 1-9　出身高等学校について（共学/女子校）

図表 1-10 では、高等学校時代の理系科目の学修において、どの程度実験や実習に参加していたかを尋ねた結果である。全体で見ると、「参加した」（「十分に参加した」＋「やや参加した」）と回答した割合は 85.5%であり、「参加していない」（「あまり参加していない」＋「参加していない」）と回答した割合は、8.3%であった。3 学部で比較すると、理学部が「参加した」と「参加していない」と回答した割合は最も高いとの結果であった。

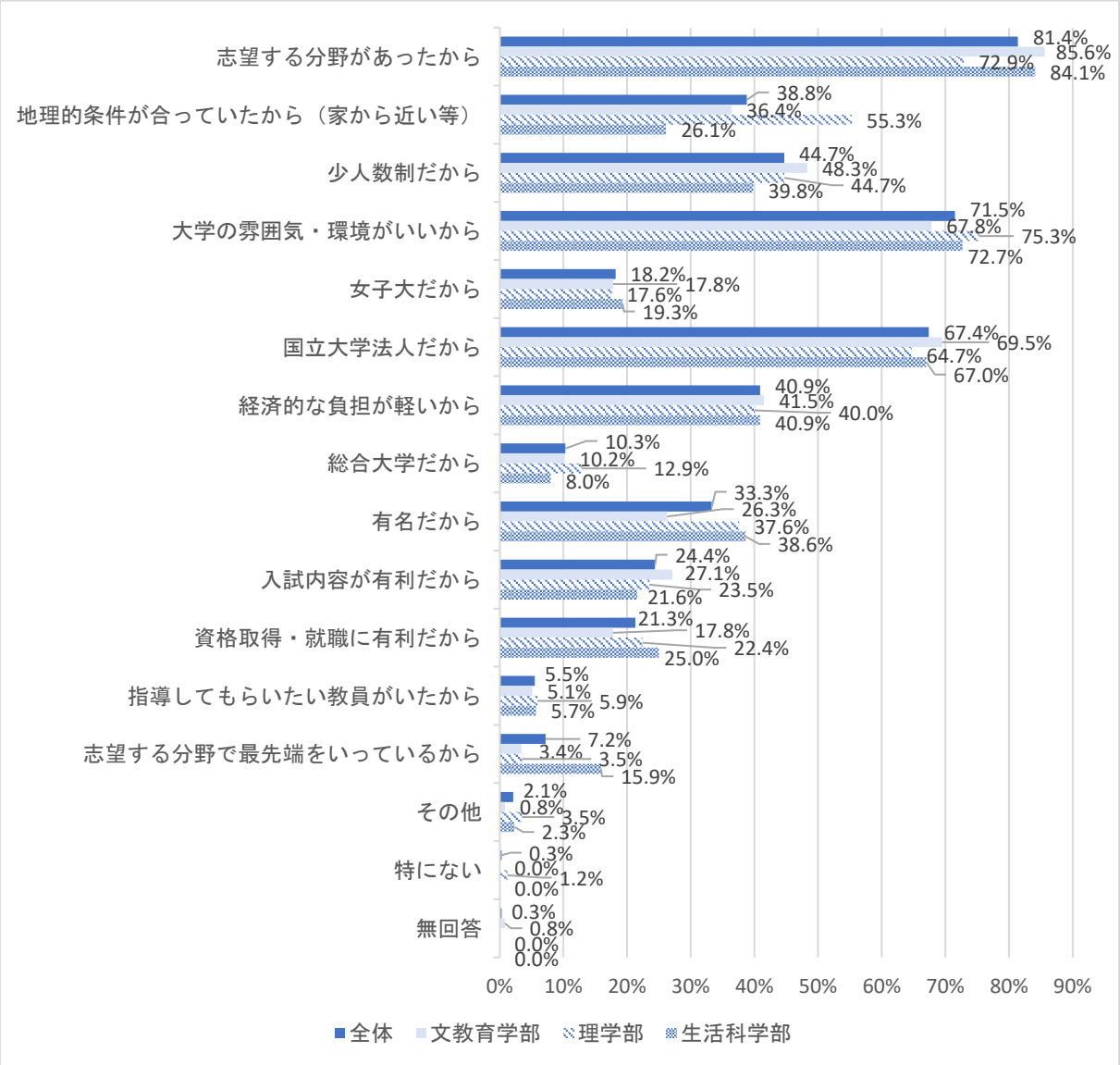


図表 1-10　理系科目の実験・実習の参加度合い

図表 1-11 では、お茶の水女子大学を選んだ理由について、自分の学力や入試の難易度以外に重視したものを複数回答で尋ねた結果である。

全体で最も高い割合を示しているのは、「志望する分野があったから」で 81.4%であり、昨年度の結果と同様に高い水準を維持している。次に「大学の雰囲気・環境がいいから」71.5%、「国立大学法人だから」67.4%、が続く。学部別にみると、文教育学部・生活科学部で最も高い割合を示しているのは「志望する分野があったから」であり、理学部では「大学の雰囲気・環境がいいから」の 57.3%であった。

また、理学部では、「地理的条件が合っていたから（家から近い等）」を理由としてあげるものの割合が 55.3%であり、他の学部と比較して高い傾向がみられた。



図表 1-11　お茶の水女子大学を選んだ理由（自分の学力や入試難易度以外）